

将来構想中間まとめ

第 2 回岡山市場未来会議

令和 7 年 1 月 24 日（金）

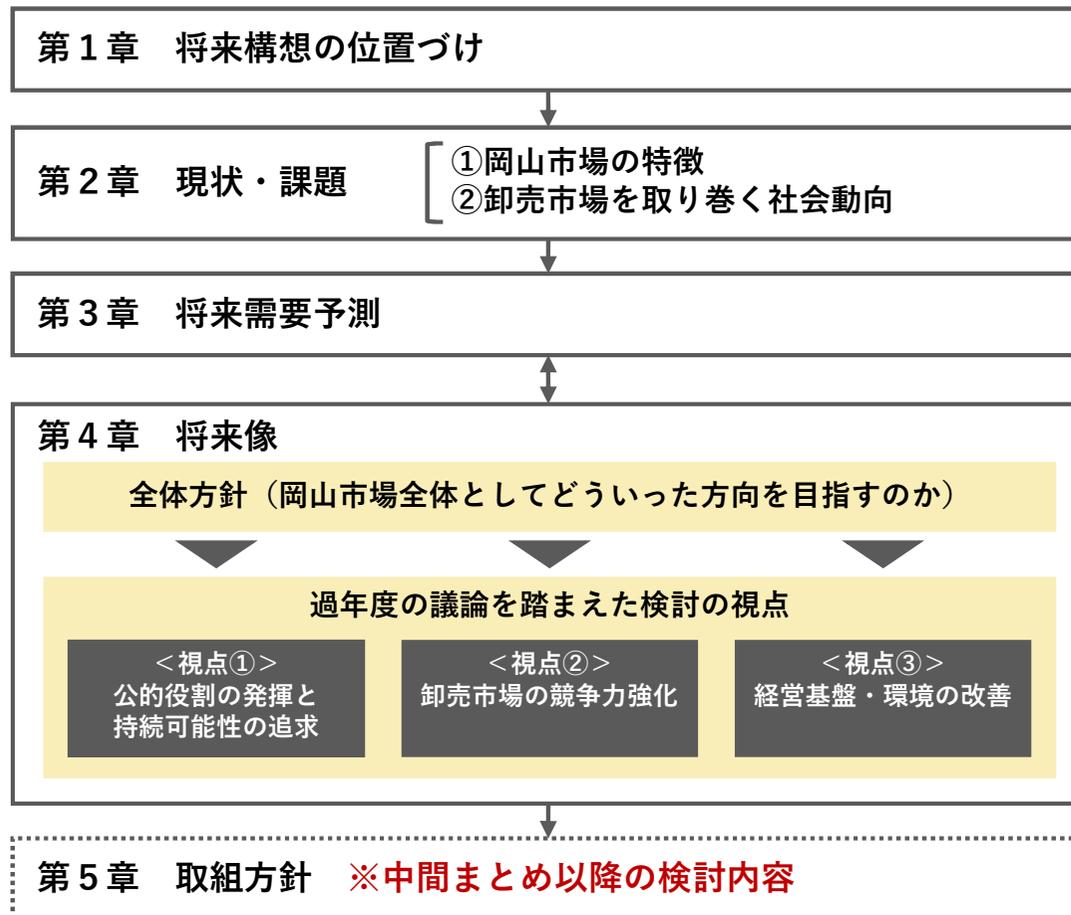
<目次>

第 1 章 将来構想の位置づけ	・・・ P 2
第 2 章 現状・課題	・・・ P 3
第 3 章 将来需要予測	・・・ P 5
第 4 章 将来像	・・・ P11

第1章 将来構想の位置づけ

- 岡山市中央卸売市場等(以下「岡山市場」という)の現状や取り巻く環境、社会動向等を踏まえ、中長期的な今後の方向性を取りまとめた将来構想を策定する。
- 将来構想は、学識経験者、市場関係者、出荷団体、小売事業者、金融事業者、消費者、開設者等によって構成される「岡山市場未来会議」及び、市場関係者を中心とした「岡山市場未来会議・分科会」の議論を踏まえて策定し、岡山市場に関わるすべての関係者の共通指針として位置づける。

【将来構想の構成】



【分科会等の開催状況】

分科会	卸売業者、仲卸組合代表者、買参組合代表者、金融事業者、小売事業者等が出席し、部門別に開催
	<ul style="list-style-type: none">■ 【第1回】 2024年9月2日■ 【第2回】 2024年10月25日■ 【第3回】 2024年12月11日、12日
関係者ヒアリング	<ul style="list-style-type: none">■ 2024年9月～12月にかけて、出荷団体、小売事業者、運送会社等の計14団体にヒアリングを実施 ※結果を適宜分科会へ提示

第2章 現状・課題

① 岡山市場の特徴

主な強み・課題

市場取引

- 仲卸業者、売買参加者数の減少、取扱数量・金額の減少により、**市場における事業活動が縮小傾向**にある。
- 青果・水産・花きのいずれも、**取扱数量・金額が減少傾向**にある。
- 多くの建物が昭和56年頃に建設されており、**老朽化や機能の陳腐化が進行**している。

集荷

- **青果・花きの生産に適した産地で、市内における農産物の生産量は概ね維持**されているが、**長期的には、生産者の高齢化や人手不足による生産量の減少が懸念**される。
- 水産については、全国的に漁獲量が減少している他、青果・花きと同様に、**生産者の減少が予測**される。
- 青果・水産は、市場経由率が大きく下降しており、花きもやや緩やかに下降を続けている。市場機能を維持するため、**岡山市場を取り巻く生鮮食料品の流通量を維持・拡大するとともに、市場経由率を高める取組が重要**になる。
- 岡山市場は、東西方向（近畿～中国～九州）、南北方向（四国～山陰）の結節点に位置し、**生鮮食料品の物流におけるハブ拠点となることが期待される一方で、高速道路へのアクセスに課題**がある。 ※岡山西バイパス及び岡山環状南道路の整備により、**インターチェンジからの時間距離が短縮される**ことが見込まれる。

出荷

- **岡山市内の消費需要は概ね維持される**ことが見込まれるが、岡山市以外の主要な供給先として想定される、**岡山県内市町村や周辺他県の人口減少に伴う消費需要の縮小が懸念**される。
- 消費のあり方の変化により、生鮮食料品（特に、加工されていないもの）の消費の縮小や、購入先のシフト（一般小売店から量販店へ）が見込まれるなかで、**販売先からの岡山市場に対するニーズ・期待役割の変化への対応が重要**になる。
- 岡山市場は、東西・南北方向の国道へのアクセスが良好であり、**近郊の販売先に対する出荷拠点として適した立地**である。

第2章 現状・課題

② 卸売市場を取り巻く社会動向

物流2024年問題への対応

- 令和6年4月より「働き方改革関連法（平成30年6月）」に基づき、自動車運送事業における時間外労働規制や拘束時間が見直された。
- 物流2024年問題への対応や中長期的かつ安定的な輸送力の確保に向けて、輸送拠点（ストックポイント）の整備や、鉄道や船舶等を活用したモーダルシフトに関する取組も進められている。

短期

- 卸売市場にモノが集まらない状況や、産地との関係性や集荷品目に変化が発生する

中長期

- 生鮮食料品等の流通形態の再構築が進み、卸売市場間で集荷状況に差が生じる可能性がある

デジタル技術の活用

- 2025年度を目標年次とする「総合物流施策大綱」において、「物流DXや物流標準化の推進によるサプライチェーン全体の徹底した最適化（簡素で滑らかな物流）」が主要な取組と掲げられ、物流業界においてデジタル技術を活用したビジネスモデルの構築が進められている。

短期

- 新規整備施設については、物流分野におけるデジタル技術の活用や標準化が与条件となる

中長期

- デジタル技術やデータの活用状況によって、事業展開や業務の生産性、人材確保等に大きな格差が生まれる

食品安全（品質・衛生管理）

- 食品衛生法の改正に伴い、全ての食品等事業者においてHACCPに取り組むことが求められ、令和3年6月からは完全義務化となった。
- 品質・衛生管理は、卸売市場を含む全ての食品等事業者において標準仕様となり、各事業者が独自かつ戦略的に取り組む必要がある。

短期

- 卸売市場に対する品質・衛生管理の要請が強まり、対応状況により、競争力に格差が生じる可能性がある

中長期

- 卸売市場へのHACCP導入が標準となり、品質管理に取り組む事業者の事業規模が拡大する

環境配慮・循環型社会

- 農林水産省において「みどりの食料システム戦略」が策定されるなど、持続可能な経済活動への取り組みは拡大傾向にある。
- 卸売市場の取引や流通にも影響を及ぼすことが予想され、持続可能なサプライチェーンの再構築を進めていくことが期待される。

短期

- サプライチェーン全体で環境配慮がより一層求められるとともに、消費行動に対する環境配慮の影響も強まる

中長期

- 環境配慮が業務上の必須要件となり、事業者ごとの取組だけでなく、市場全体としての対応が求められる

第3章 将来需要予測

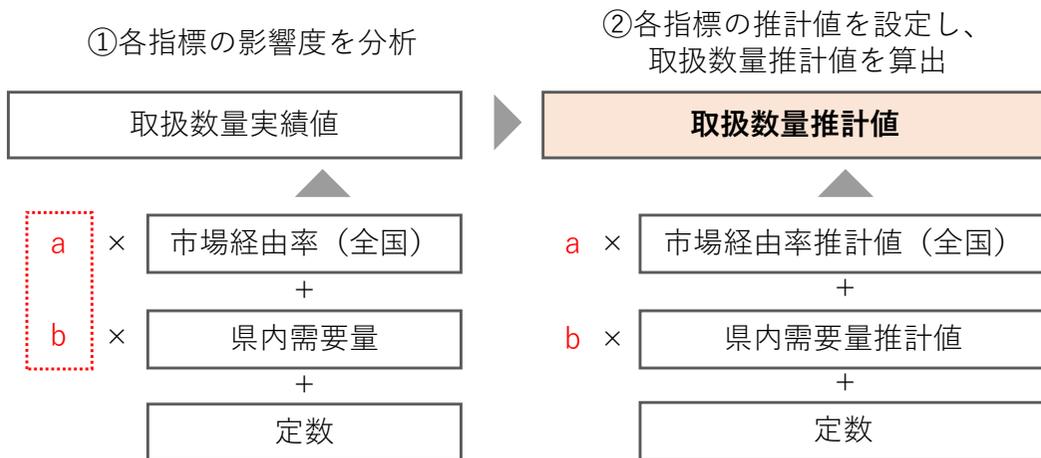
■ 回帰分析を用いて、岡山市場の過年度実績に基づき、取扱数量と市場経由率、県内需要量の関係を分析したうえで、**各指標の将来推計値を設定し、取扱数量の将来推計値（～2044年度）を算出した。**合わせて、**取扱数量の将来推計値に卸売価格（当てはまりのよい回帰式を用いて推計）を乗じることで、取扱金額の将来推計値を算出した。**

- 近年の傾向を適切に反映するため、2023年度実績に対して、将来推計値の各年度の増減率を乗じることで、2024年度以降の推計値を算出した。
- 指標のうち、県内需要量推計値について、**野菜・果実・水産は「岡山県人口推計値×一人当たり需要量推計値」を用いた。**また、**花きは、同様の算出が困難であることから、代替指標として「県内出荷量」を用いた。**

■ なお、指標のうち、「市場経由率」については、全国の市場経由率が岡山市場にも当てはまるものと仮定したうえで、将来構想等で整理した取組によって、**2026年推計値の水準を維持する**ことを想定し、推計を実施した。

【将来推計の考え方】

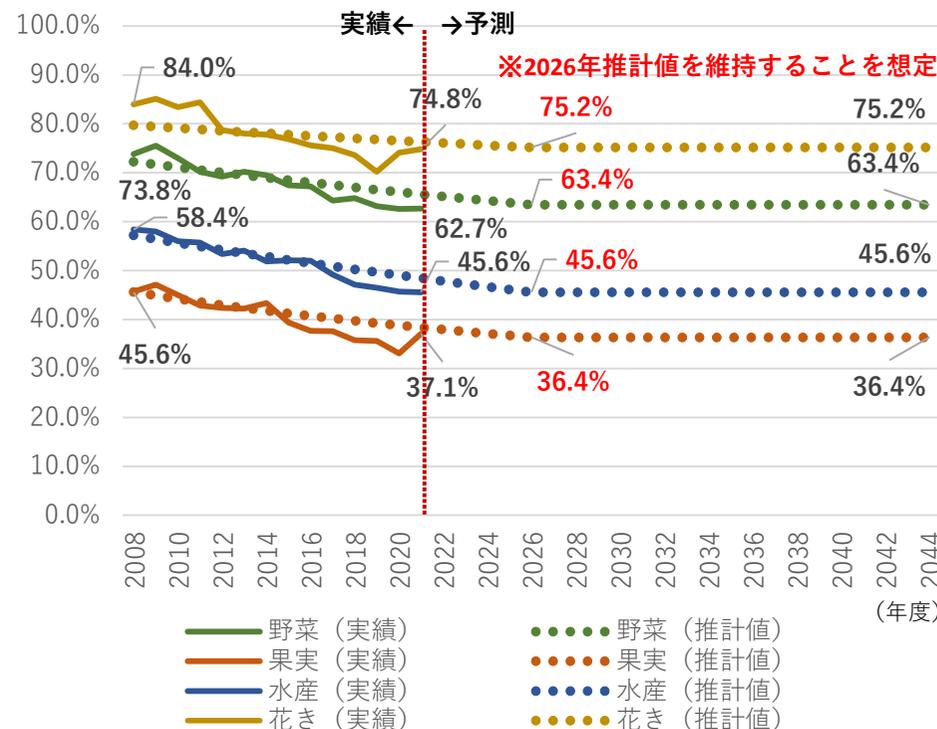
回帰分析



■（参考）種類別の回帰式

青果（野菜）	$825.9 \times \text{市場経由率}(\%) + 0.347 \times \text{需要量}(t) - 54,469$
青果（果実）	$427.0 \times \text{市場経由率}(\%) + 0.491 \times \text{需要量}(t) - 30,473$
水産	$877.6 \times \text{市場経由率}(\%) + 0.414 \times \text{需要量}(t) - 33,833$
花き（切り花）	$905.4 \times \text{市場経由率}(\%) + 1.035 \times \text{出荷量}(千本) - 65,839$
花き（鉢物）	$426.5 \times \text{市場経由率}(\%) + 2.613 \times \text{出荷量}(千鉢) - 27,444$

【指標①：市場経由率推計値】



出所：農林水産省「卸売市場データ集」をもとに作成
 注：最も当てはまりの良い回帰式を採用

第3章 将来需要予測

■ 将来需要予測結果まとめ

- 取扱数量は、市場経由率が2026年推計値の水準を維持する場合において、20年間で約40%～約80%程度に減少する見込みである。これは、各種類ともにライフスタイルの変化や高齢化等を背景に、一人当たり需要量が減少傾向にあること、岡山県内の将来人口が減少することによって、県内需要量（花きについては県内出荷量）が減少することに起因する。
- 取扱金額は、取扱数量よりも減少率が低く、特に、野菜・水産では10%程度の減少、鉢物では10%程度の増加となっている。これは、この間の卸売価格の上昇分（仮に、過去の実績の傾向通りに上昇が続く場合）が影響している。

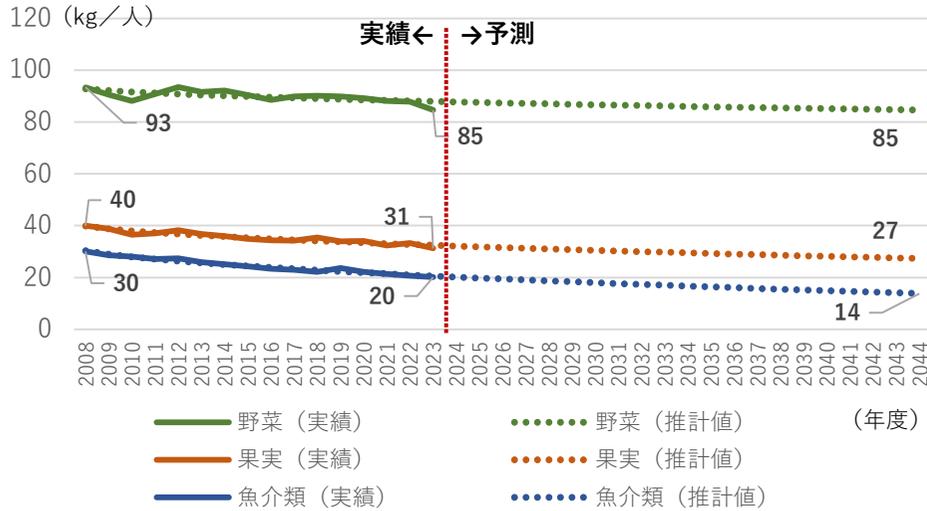
【将来需要予測結果まとめ】

種類	取扱数量（t、千本、千鉢）		取扱金額（百万円）	
	推計値 （2044年度）	対2023年度 比率	推計値 （2044年度）	対2023年度 比率
野菜	40,654	80.7%	11,428	90.4%
果実	6,583	42.9%	6,242	67.6%
水産	12,662	65.3%	22,716	92.7%
切り花	12,574	50.7%	1,324	67.3%
鉢物	3,265	73.5%	998	112.5%

第3章 将来需要予測

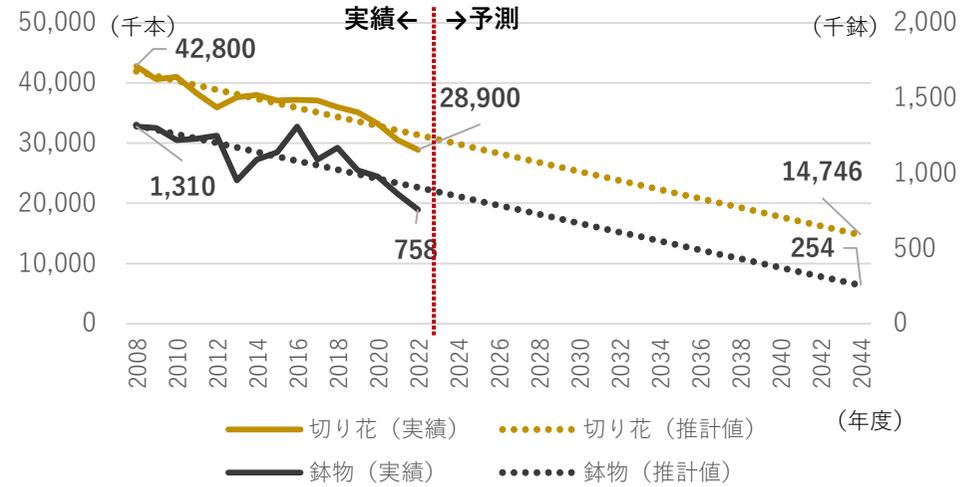
■ 各参考指標データ

【指標②-1：一人当たり需要量推計値】



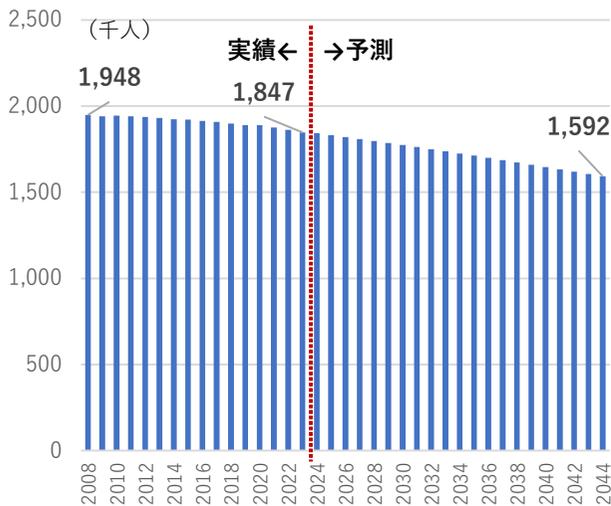
出所：農林水産省「食料需給表」をもとに作成
注：最も当てはまりの良い回帰式を採用

【指標②-2：県内出荷量推計値】



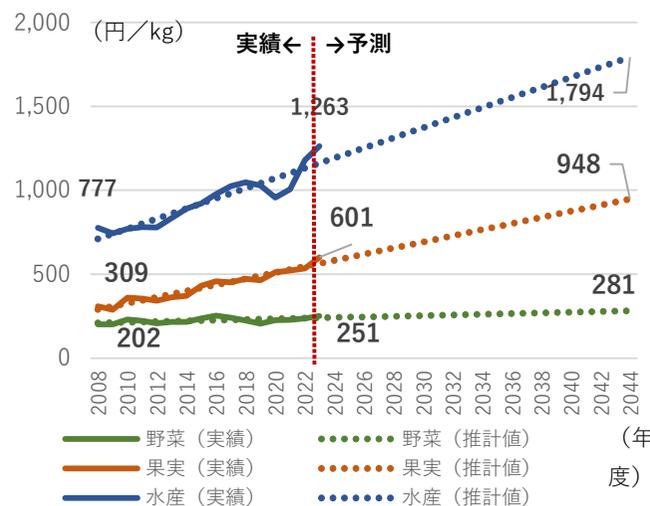
出所：農林水産省「作物統計調査」をもとに作成
注：最も当てはまりの良い回帰式を採用

【指標②-3：将来人口推計値】

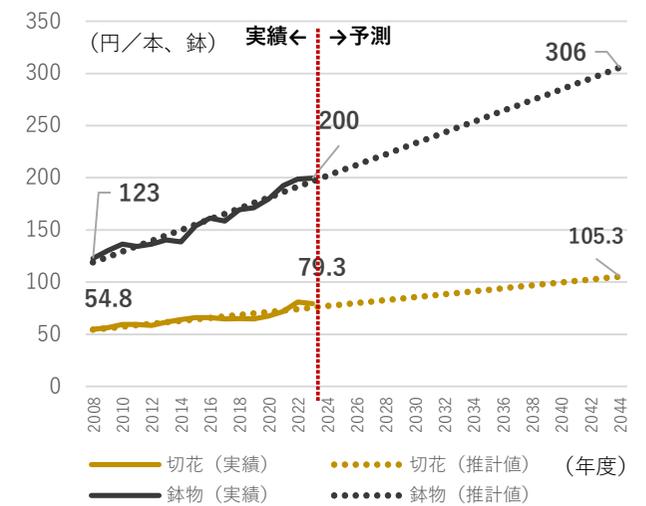


出所：岡山県資料、総務省資料、国立社会保障・人口問題研究所の推計値をもとに作成

【参考：卸売価格推計値】



注：最も当てはまりの良い回帰式を採用

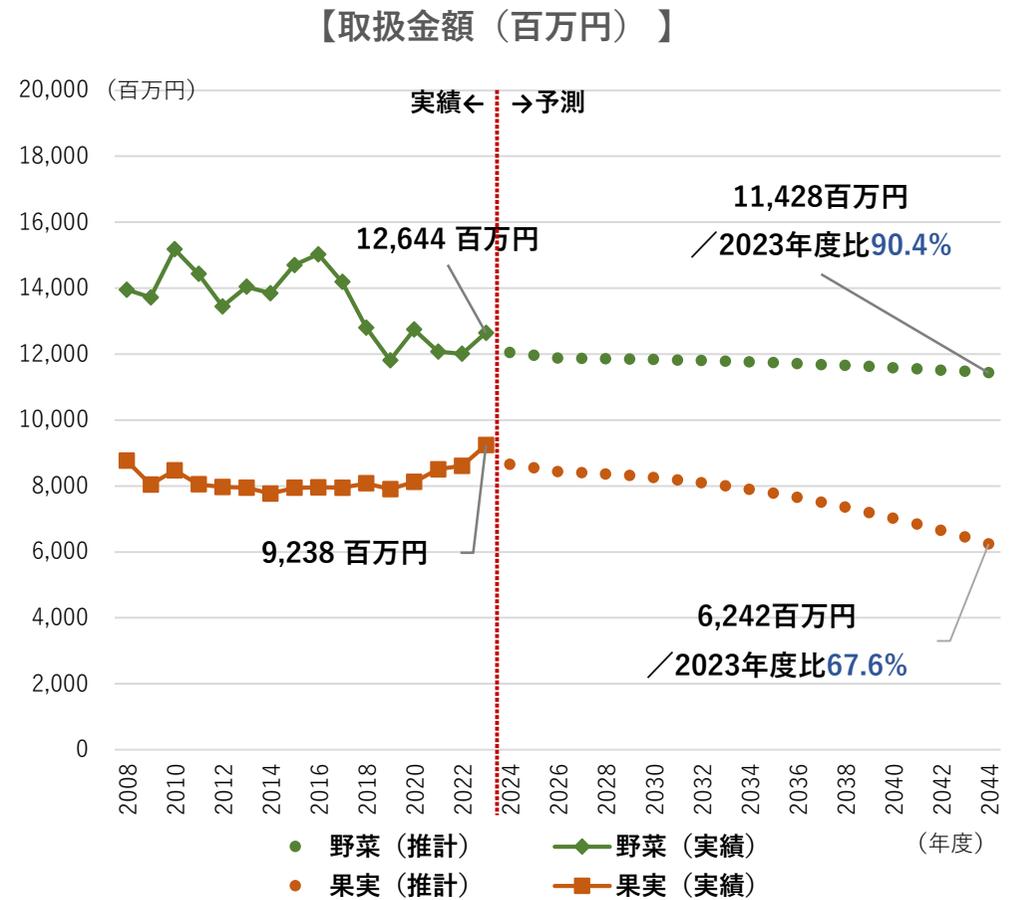
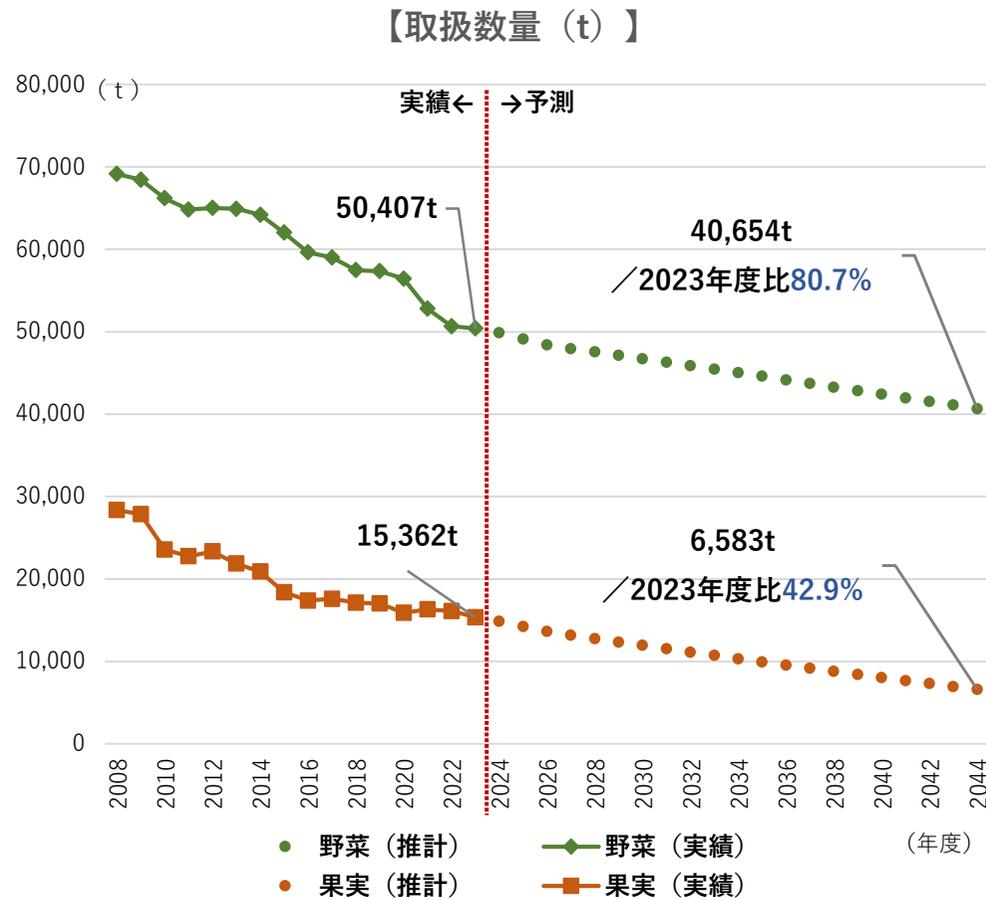


注：最も当てはまりの良い回帰式を採用

第3章 将来需要予測

■ 将来需要予測結果：青果（野菜・果実）

- **【野菜】** 取扱数量は、県内需要量等の減少を背景に20年間で**約20%減少する**一方で、卸売価格の上昇を加味すると、取扱金額は**約10%の減少に留まる**ことが見込まれる。
- **【果実】** 取扱数量は、20年間で**約60%減少する**ことが見込まれる。取扱金額は、近年は卸売価格の上昇に伴って増加傾向にあるが、卸売価格の上昇分以上に取引数量の減少が大きく、20年間で**約35%減少**することが見込まれる。

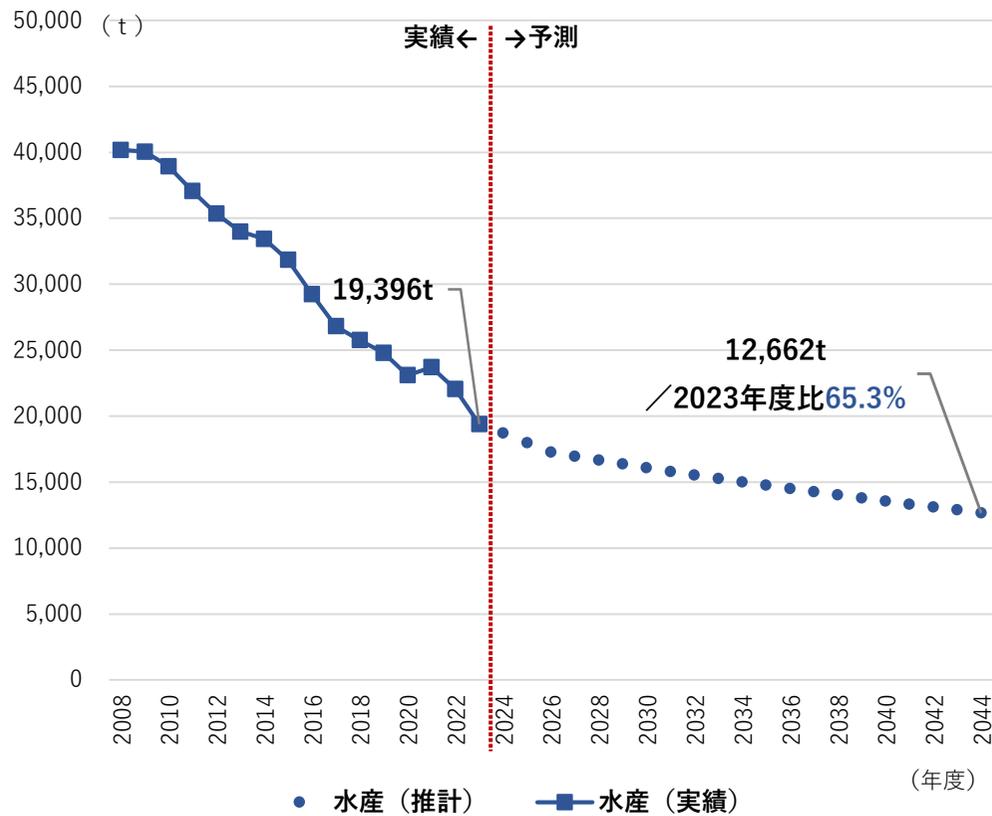


第3章 将来需要予測

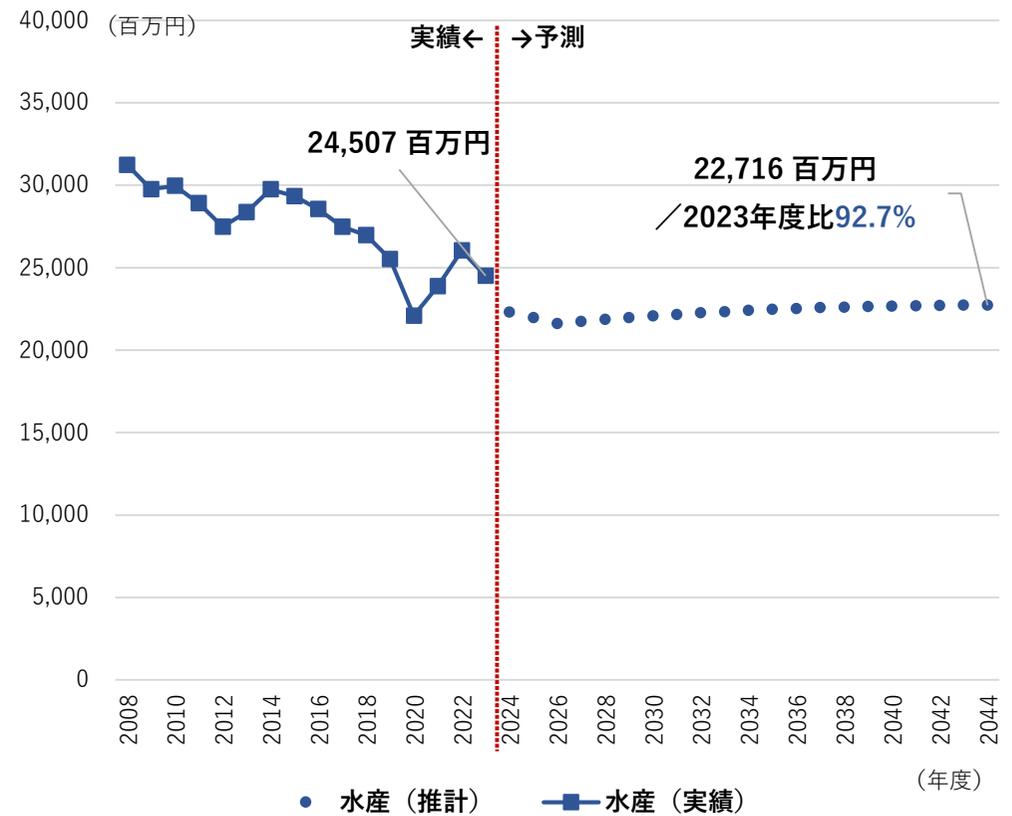
■ 将来需要予測結果：水産

- **【水産】** 取扱数量は、20年間で**約35%程度減少**することが見込まれる。一方で、卸売価格の上昇を加味すると、取扱金額は**約10%の減少に留まる**ことが見込まれる。

【取扱数量 (t)】



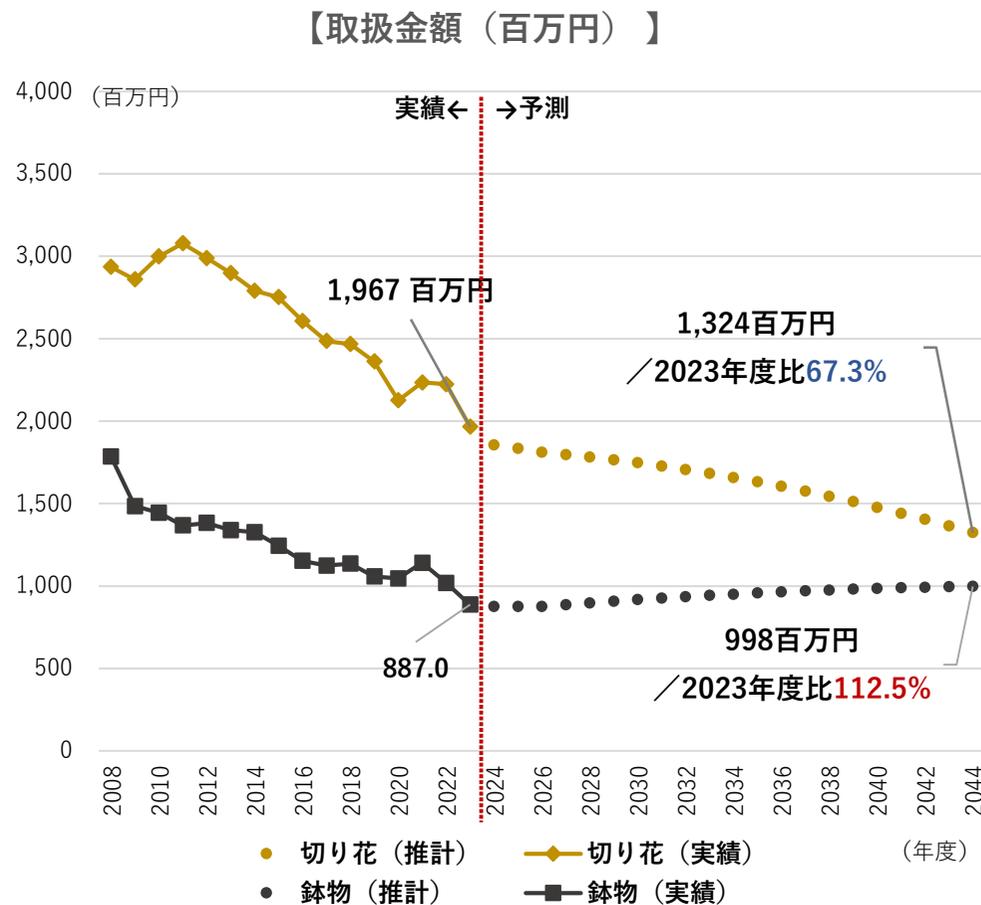
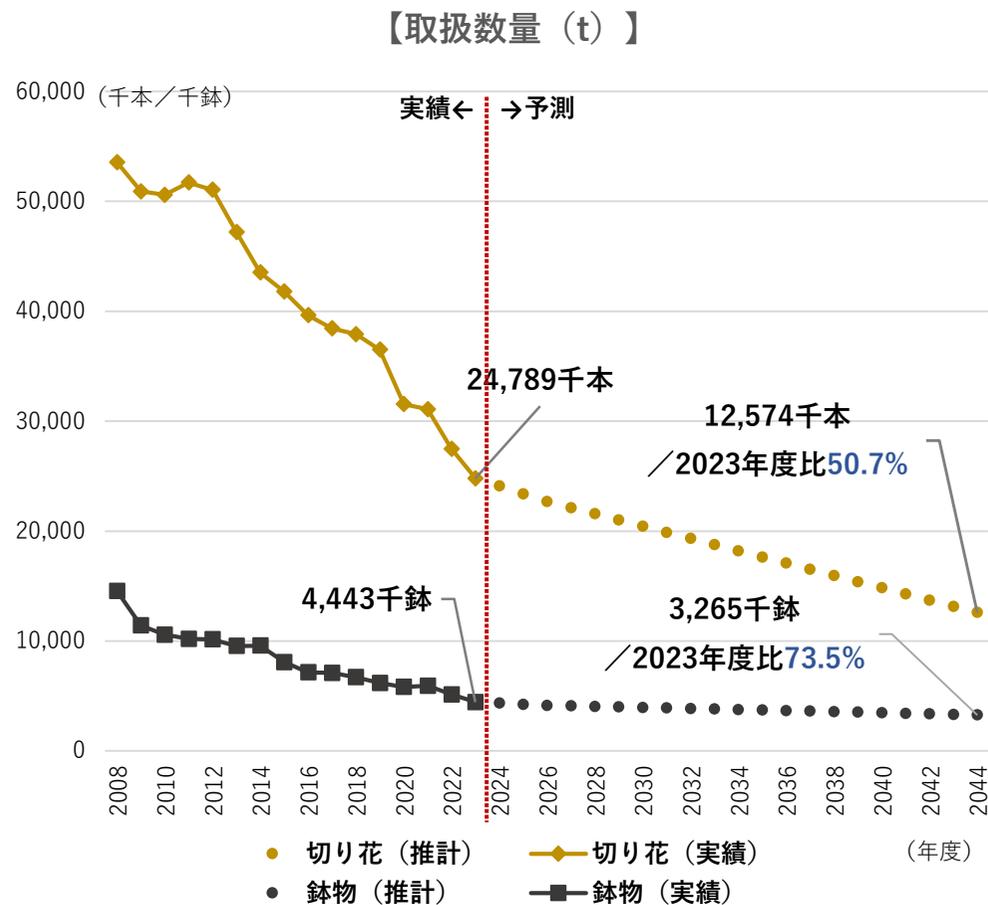
【取扱金額 (百万円)】



第3章 将来需要予測

■ 将来需要予測結果：花き（切り花・鉢物）

- **【切り花】** 取扱数量は、20年間で**約50%減少**することが見込まれる。取扱金額は、卸売価格の上昇分以上に取引数量の減少が大きく、20年間で**約25%減少**することが見込まれる。
- **【鉢物】** 取扱数量は、20年間で**約25%減少**ことが見込まれる。取扱金額は、卸売価格が大きく上昇することが見込まれるため、20年間で**約10%増加**することが見込まれる。



1 岡山市場の全体コンセプト

市場規模のコンパクト化と独自性・らしさの追求によって、持続的な市場経営を実現する

- 安定的な食料等の供給のため、岡山市場の市場機能は将来も必要
- 取扱数量は減少傾向が続く見通し、ピークからの減少を踏まえても市場規模はコンパクト化することが現実的
- 他市場にはない独自性を強めるとともに、従前の発想を超えて柔軟に事業を広げることが重要
- コンセプト実現の1つの手段として、公民連携による市場再整備のあり方について引き続き検討

地場産品の集荷・販売力強化×中四国における広域流通拠点の形成

青果

岡山県に強みのある農産品を集積し、販売力を強めるとともに、中四国の結節点としての立地を活かし、他市場への転配送機能を発揮

水産

岡山市場の特徴・強みである「瀬戸内の鮮魚・活魚（天然魚）」の更なる充実を起点に、市場全体の取引を拡大

花き

常に多様な商品が揃う市場ではなく、岡山県に強みのある品種を中心に、独自性のある市場づくりを推進

2 将来の岡山市場の立地

市場全体の移転だけでなく、部門別市場やサテライト拠点の整備、転配送機能の強化等の可能性を幅広く検討し、立地特性を活かした事業環境の向上を図る

- 青果・花き…集荷面のメリットが大きく、(一部/全部)移転による事業環境の向上が期待される
- 水産…集荷面のメリットよりも、販売面や移転コスト等のデメリットが大きく、現地での業務継続が望ましい
- 中長期的には、岡山西バイパス及び岡山環状南道路の整備に伴うインターチェンジからの時間距離の短縮等の効果を踏まえた検討が必要

視点①：公的役割の発揮と持続可能性の追求

1 卸売市場ならではの教育機能・情報発信

卸売市場を拠点とした食育・花育の展開に向けて、
産地・販売先と連携した具体的な方策を継続的に検討する

- 取扱数量の減少の背景には、ライフスタイルの変化等による消費低迷がある
- 卸売市場の公的機能として、食育・花育に注力することは重要
- 卸売市場が中心となって、産地と消費者の距離を近づけられるような役割を果たすことが期待される

2 まちづくり・地域振興への貢献

卸売市場の特性を活かした地域振興の可能性について、多様な観点から継続的に検討する

- 地域振興や消費者との接点拡大のために、市場施設や用地を活用した賑わい創出は重要
- 将来のあり方を市場単独で考えるのではなく、周辺のまちづくりの視点から考える必要がある
- ただし、市場機能との共存や、周辺小売店への影響には留意が必要

第4章 将来像

視点②：卸売市場の競争力強化

1 産地をはじめとした関係者との連携強化

卸売市場による産地支援や栽培提案の仕組みづくりを推進する
(卸売市場主導で、産地・販売先・物流事業者を巻き込んだチームを組成し、早急に議論を開始する)

- 市場取引の拡大に向けて、市場内だけで取り組めることは限定的であり、産地・販売先・物流事業者等と一緒に議論を重ね、必要な取組を検討することが重要
- 集荷拡大のためには、従来の市場機能の枠を超えて、産地営業・提案力の強化や、産地の集荷・選別等の機能を卸売市場に取り込むことがポイントになる

2 品質・衛生管理の向上

コールドチェーン対応を含めた品質・衛生管理水準の向上について、再整備を含めた対応を推進する

- 産地・販売先からの要請として、コールドチェーンの確保、品質・衛生管理水準の向上は必須

3 広域流通拠点化の推進

物流の結節点である立地を生かし、需要に応じた中四国のハブ市場化を目指す

- 立地を生かしたハブ市場化は重要だが、需要を見極める必要がある
- 実際の需要・優位性については、周辺他市場の動向や遠隔産地・物流事業者等の戦略を踏まえた検証が必要

第4章 将来像

視点②：卸売市場の競争力強化

4 ブランド化・商品の付加価値向上

品質や特徴が際立つ岡山の特産品を選定するなど、岡山市場ブランドの強化を推進する

- ブランド化による付加価値向上の重要性は指摘されているが、具体的な方策は要検討
- 個別品種・品目のブランド化だけでなく、岡山市場全体のブランドを図ることも考えられる

5 量販店ニーズへの対応（加工・ピッキング機能の強化）

必要な機能を見極めながら、岡山市場一体での量販店センター機能の拡充を目指す

- 量販店との取引拡大のためには、加工・ピッキング機能の強化、積込場の拡充等の対応が重要
- 一方で、特に加工機能は、周辺他市場に対して遅れを取っており、導入機能を見極める必要がある

視点③：経営基盤・環境の改善

1 場内事業者の組織体系の再編

経営基盤の強化に向けて、卸売業者の組織再編や 卸売業者・仲卸業者の連携強化の可能性を、幅広く検討する

- (青果)市場全体の魅力を高め、新たな取組に挑戦するために、卸売業者2社体制を見直すことも考えられる
- 市場全体の取引拡大のためには、卸売業者から仲卸業者への販売比率を高め、一体的な集荷・販売促進に取り組むことが重要
- 部門・業態・事業者を越えた共同集荷・配送や冷蔵庫をはじめとした市場施設の共同利用等の仕組みづくりについて、場内事業者自らがリーダーシップを発揮し、早々に推進する必要がある

2 業務効率化・DX

業務効率化・DXを図るポイントを特定し、市場全体で解決策に取り組む (例：取引記録の電子化、精算機関の再編 等)

- 業務効率化やDXの必要性は感じているが、1社では実現できないため、市場全体での取組が必要

3 働きやすい環境づくり

施設面だけでなく、業務時間の見直しや市民に開かれた市場づくり等、 抜本的な「働きやすい環境づくり」の可能性を幅広く検討し、着実に実行する

- 人材確保のためには、労働時間や環境の面での就労環境の改善やイメージアップが必須である
- せり時間の見直しや販売先への納入時間の調整等、抜本的な就労時間の見直しも重要である